

第204話 俳額② 牛頭天王宮俳額 その1 中山町 歴史散策

服部文右衛門家に残された、表紙のない10枚(20ページ)ほどの俳句手帳には、南淮の初句に、44句が従う「最上川」の懸題と地元俳人の名が並んで示されています。次いで、「元旦」の小文があり、其松の初句以下8句、再び小文「最上川」に添えて14句。最終に俳額を奉納すべく、南淮の初句を含む21句から成っています。

ここで、牛頭天王宮俳額のことと触れておきます。天保15辰年(1844年)4月吉日の巻頭の一文は次のようになっていきます。

「卯月の長崎に杖をとめて仲間屋に宿居の折から、例の友々を集め神社の掛額を催さむとす。四季の風雅に時を移せば、予も少しく其庸に津らなる事を悦べし」

咲ぬれば影もにほうかき津はた
和生

次のページには、発願の文があります。

「羽州村山郡長崎なる鎮守牛頭天王の御社さ以回縁に逢い、ひとく神垣も荒れしを今は宮垣ひとしく再建し、いさき神輿を遷し了ぬ。然るに宝前に額を拝し奉らん事を願ひ、四季の眺集めむべしとて最上川の発句を諸風土よりもとめ、神いさめに奉連る頼主の願ひは、水底浅からず清らかにして予にその端書をかさぬれハ、聊か以津める事志かり

動かぬ雲の影なり最上川

古川 南淮

蝶飛ぶや慰かたのりの舟支度

古川 南淮

(以下次号に続く)

【語句の説明】

回縁…天井の回りと壁の接する所に取り付ける横木。

神垣…神社の周囲の垣。神域を

他と区別するための垣。

神いさめ…神の心をなぐさめること。

※引用 中山町史 中巻

第10章第3節

文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です! No.70



ごきげんよう～。今月の担当は『かぶくん』大好き阿部です。
中山町に移住して8か月が経ちました。おかげ様で楽しく暮らしております。

昨年の11月に活動を開始した頃は知り合いもなく不安な毎日で、どうにか皆さんと出会い、交流したいと思い広報紙に掲載されている各団体主催の集まりに積極的に参加していました。その中に『中山音頭練習会』がありました。皆さんが新参者の私にとっても親切に接してくださり、見よう見まねで輪に入って踊りました。久しぶりに身体を動かしてリフレッシュ。そして何より『中山音頭』の歌詞に感動しました。中山町の暮らしや歴史が盛り込まれています。野球の歌詞も入って「球音高くホームラン」まさに野球の神様が私に微笑んでくれているようです。『君はひまわりの花』はホームシックになっていた私を励ましてくれるような曲で、「君は今、ひざしに向かうひまわりの花」のフレーズに希望をもって移住した時の気持ちを思い出させてくれ、心が晴れやかになりました。ありがとうございます。ぜひ皆さんも歌詞を読んでみてください。「ほんに中山おらが町」中山町の良いところが再発見できますよ。ハア～『かぶくん』は今どさいる?(ソレ)



阿部美恵子

出身地: 栃木県鹿沼市
趣味: 高校野球観戦

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271 (総合政策課)